

京都国立博物館

ユ センコウ
(2020 年入学 4 期生)

はじめに

皆さん、京都国立博物館に行ったことがありますか。京都国立博物館は京都の文化を中心として、主に平安時代から江戸時代までの文化財が集まり、千年の京都文化を展示して最大の場所である。京都国立博物館の宝物は、館内には無数の文化財だけではなく、博物館の施設も、京都の近代産業遺産として重要文化財と指定された。今回は京都国立博物館について紹介したい。

開館の経緯

明治維新以降、日本は様々な西洋の思想を受け入れ、文化的に衝撃を受けた。この時期、日本人の本格的な文化財保護が始まった。この背景のもと、明治 21 年（1888 年）、宮内省は臨時全国宝物取調局を設置し、近畿地方をはじめとする文化財調査事業を行った。その結果、京都と奈良は極めて重要な文化財の集中エリアと判明した。それで、京都と奈良の文化財を収蔵する施設の整備が急務とされたので、明治政府は京都と奈良に国立博物館を設置することを決めた。明治 22 年（1889 年）、「帝国京都博物館」と「帝国奈良博物館」の官制が定められ、帝国京都博物館の設置を推進する機関が発足した。明治 23 年（1890 年）、七条御料地（旧恭明宮址）に敷地が決定され、仮事務所が置かれる。明治 25 年（1892 年）、片山東熊博士の設計による陳列館（現在の明治古都館）の建設が始まり、三年後の明治 28 年（1895 年）に竣工した。諸準備が整い、明治 30 年（1897 年）に開館式が挙行され、帝国京都博物館は「帝国博物館」（現在の東京国立博物館、明治 5 年（1872 年）創設）と「帝国奈良博物館」（明治 28 年、1895 年創設）に次いで、全国三番目の国立博物館となった。

開館後の沿革

明治 33 年（1900 年）に、帝国京都博物館は「京都帝室博物館」と改称され、大正 13 年（1924 年）に、皇太子殿下（後の昭和天皇）の御成婚を記念して京都帝室博物館を京都市に下賜し、「恩賜京都博物館」と改称した。その後、昭和 27 年（1952 年）、博物館が再び国に移管し、文化財保護委員会の附属機関として、現在の「京都国立博物館」が成立した。令和元年（2019 年）の時点、京都国立博物館は国宝 29 点、重要文化財 200 点を含む総数 8130 点の収蔵品があり、国宝 88 件、重要文化財 615 件を含む総数 6,520 件の寄託品を保管している。当年度の来館者数は約 38 万人であり、展示品の数と質から総合的に見れば、東京国立博物館に次いで、全国二番目の博物館と言える。

京博の施設

1. 明治古都館

現在の京都国立博物館の敷地の一角に立つ赤レンガ風の建築は、明治古都館である。明治古都館は平成 25 年（2013 年）までの 116 年間にわたり陳列館として使われていた。明治古都館は煉瓦造平屋建て、フレンチルネサンス様式で、表門、塀などの附属建物も煉瓦造で、西洋風の建築である。設計者は明治期に活躍した片山東熊博

士である。片山東熊博士は皇室と貴族の建築物などを多く手掛けたことから宮廷建築家と呼ばれ、奈良国立博物館、迎賓館、神宮徴古館などの作品が残っている。昭和 44 年（1969 年）、旧本館（明治古都館）、表門、同札売場及び袖塀が京都近代の産業遺産として重要文化財に指定された。



明治古都館



片山東熊

2. 平成新知館

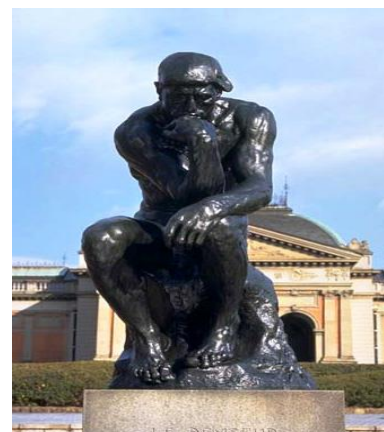
昭和 40 年（1965 年）、森田慶一博士の設計による新平常展示館（平成新知館の前身）が完成し、陳列館（明治古都館）の一部の職能を分担していた。平成 21 年（2009 年）、平常展示館の建て替えを開始し、平成 25 年（2013 年）に再び開館した。それをきっかけに、旧陳列館が「明治古都館」に改称され、新平常展示館が「平成新知館」に改称された。



平成新知館

3. 考える人

京都国立博物館の正門と明治古都館を結ぶ軸線上に設置されている「考える人」という彫刻も有名だ。この彫刻は 19 世紀のフランス彫刻家、近代彫刻の父、フランソワ・オーギュスト・ルネ・ロダンの作品である。昭和 25 年（1950 年）に個人所蔵家から寄託を受け、昭和 31 年（1956 年）に国有となり、京都国立博物館に設置された。



考える人

4. 堪庵

京都国立博物館の敷地内には、「堪庵」という茶室が存在している。この茶室は、昭和 33 年（1958 年）、上田堪一郎氏によって寄贈されたもので、江戸時代初期、京都に

おける公家文化の伝統を受け継いだ数寄屋造りの建物である。昭和 41 年（1966 年）に明治古都館の南側から現在の位置に移築された以降、茶会等の利用に一般開放されている。



堪庵

まとめ

京都国立博物館は国内で有数の博物館として、多くの国宝を収蔵し、世界中の人々に千年古都である京都の文化や魅力を展示している。一方で、博物館の建築も和洋折衷、伝統と現代の調和、独特な「京博の景」を示している。近年の文化庁京都移転により、京都国立博物館は大きな発展期を迎え、未来の京博は日本の京博を超えて、世界の京博を目指す。もし皆さんが京都の文化に興味を感じるなら、京都国立博物館を見学し、京博の魅力を楽しまう。

参考文献

京都国立博物館 公式サイト <https://www.kyohaku.go.jp/jp/>

文化遺産オンライン 臨時全国宝物調査関係資料

<https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/443089>

令和 2 年度 国立文化財機構概要

<https://www.nich.go.jp/wp/wp-content/uploads/2020/08/gaiyo2020.pdf>

『京都市の近代化遺産～京都市近代化遺産（建造物等）調査報告書～近代建築編』2006 年 京都市文化市民局

http://www.kyoto-be.ne.jp/soumu/fukyouikouhou/kanri6_5.pdf